



朝一小だより

活気があふれ、心が躍り、一人一人がより良く生きる学校

Tel048-461-0052 <http://www.asakadailshou.city-asaka.ed.jp/>

学校教育目標

・考える子
・やさしい子
・たくましい子



朝霞市立朝霞第一小学校

令和5年2月1日

児童数 581名



スポーツの持つ力

校長 金子 二郎

大寒も過ぎ寒さがひとしお厳しい頃となりました。十年に一度といわれる最強寒波の来襲との報道もありました。インフルエンザの流行も気になるころですが、皆様におかれましてはお変わりございませんでしょうか。令和5年も本校の教育活動にご理解とご協力をいただいておりますこと、心より御礼申し上げます。

ウインタースポーツの最盛期ですが、オリンピックのような華やかな国際大会の報道も目立たぬためか、野球のWBCなど、今後のイベントにも関心が高まっているようです。またラグビーワールドカップ2023フランス大会が予定されており、今から楽しみにしています。



以前にも触れましたが、ラグビーが持つ人間形成に資する特徴として、「品位、情熱、結束、規律、尊重」が示されており、ラグビー憲章において、「ゲームの原則」と「競技規則の原則」に加えて、ラグビーの5つのコアバリューとして紹介されています。この中で、チームメイト、相手、レフリー、および、ラグビーに関わる人々を「尊重」することは、最も優先すべきことであるとされており、次のように説明されています。

「自分がトライをしたケース、そのトライは自分の力だけではなく、仲間の努力が結集したものです。それゆえ、ボールを奪い、パスをつないでくれた仲間を尊重します。それだけでなく、悔しい思いをしている相手選手をおもんばかる気持ちから、相手選手に対して喜びをアピールしたり、過度に喜ぶような行為は慎んでいます。試合中には、仲間を支え合ったり鼓舞し合うような声掛けをします。仲間のミスを責めたり、相手チームをけなしたり、レフリーを批判するような言葉は、発しません。



負傷者が発生した場合には、それが相手チームの選手であっても、レフリーに知らせたり、救護したりすることがあります。どのような試合でも勝てば嬉しい、負ければ悔しいです。しかし、ラグビーの試合終了はノーサイドです。ノーサイドの笛が吹かれた瞬間、敵味方はなくなり、互いの頑張りを称え合います。」



私が子供の頃とは異なり、今は幼い頃から様々な種目のスポーツを気軽に楽しむことができるようになりました。心身ともに健やかに育つことを願って、子供が興味を持った種目のスポーツクラブに通わせる家庭も増えました。競技であれば勝ち負けが伴うことは少なくありませんが、勝つためだけに鍛えるのではなく人間として身につけるべき多くのことを学んでほしいと、大人は子供たちを応援しています。バレーボール元日本代表の益子直美さんは、子供が楽しくのびのびとプレーすることを第一に、「監督が絶対に怒らない」ことを最大の決めごととした大会を開催しているとの報道もありました。見ているだけでも感動をもたらしてくれるスポーツは、子供たちに夢を与え大きく成長させてくれます。子供だけでなく大人もスポーツを楽しみ、その魅力を享受できたらと思います。



うまくいかなかったときは、人のせいにならず、まずは自分の中に理由を見つけなさい (井村雅也)